

# DevPartner® インストールガイド

DevPartner Studio Professional Edition 9.0.2  
DevPartner Studio Enterprise Edition 9.0.2  
DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite 9.0.2



サポートが必要な場合は、以下のカスタマ サポート ホットラインにお電話を  
いただくか、弊社 FrontLine サポート Web サイトにアクセスしてください。

カスタマ サポート ホットライン：  
1-800-538-7822

FrontLine サポート Web サイト：  
<http://frontline.compuware.com>

このドキュメント、およびドキュメントに記載されている製品には、以下が適用され  
ます。

アクセスは、許可されたユーザーに制限されています。この製品の使用には、  
ユーザーと Compuware Corporation の間で交わされたライセンス契約の条項が  
適用されます。

© 2009 Compuware Corporation. All rights reserved.

この未公表著作物は、アメリカ合衆国著作権法により保護されています。

#### アメリカ合衆国政府の権利

アメリカ合衆国政府による使用、複製、または開示に関しては、Compuware  
Corporation のライセンス契約に定められた制約、および DFARS 227.7202-1(a) および  
227.7202-3(a) (1995)、DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii)(OCT 1988)、FAR 12.212(a)  
(1995)、FAR 52.227-19、または FAR 52.227-14 (ALT III) に規定された制約が、適宜、  
適用されます。

#### Compuware Corporation.

この製品には、Compuware Corporation の秘密情報および企業秘密が含まれています。  
Compuware Corporation の書面による事前の許可なく、使用、開示、複製することは  
できません。

DevPartner® Studio および BoundsChecker は、Compuware Corporation の商標ま  
たは登録商標です。

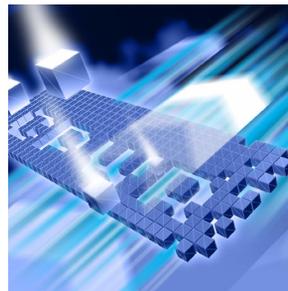
Adobe Acrobat® Reader copyright © 1987-2009 Adobe Systems Incorporated.  
All rights reserved. Adobe、Acrobat、および Acrobat Reader は、Adobe Systems  
Incorporated の商標です。

その他の会社名、製品名は、関連する各社の商標または登録商標です。

米国特許番号：5,987,249、6,332,213、6,186,677、6,314,558、6,016,466

発行日 2009.5.15

# 目次



## はじめに

対象読者 .....	v
DevPartner Studio の新機能 .....	vi
表記方法 .....	vi
マニュアルの記載内容に関する注意事項 .....	vii
補足情報 .....	vii

## 第 1 章

### DevPartner Studio のインストール

システム要件 .....	1
サポートされている環境 .....	2
Microsoft .NET Framework .....	3
ライセンス ファイルの取得 .....	3
DevPartner Studio のライセンスについて .....	4
リモードデータ収集用のインストールとライセンス .....	5
ファイアウォール アラームのトリガー .....	6
インストールされる機能 .....	6
DevPartner Studio Enterprise Edition の機能 .....	6
DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite .....	6
Visual Studio の side-by-side 実行 .....	7
インストール .....	7
DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング .....	9
DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行 .....	10
移行の準備 .....	10
ルール データベースの移行 .....	11
プリファレンス データベースの移行 .....	12

---

## 第 2 章

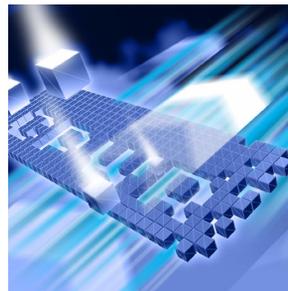
### インストールの保守

保守モードにアクセスする .....	13
インストールを変更する .....	14
インストールを修正する .....	14
インストールを削除する .....	15

### 索引

### 日本コンピュータ株式会社テクニカル・サポートのご案内

# はじめに



- ◆ 対象読者
- ◆ DevPartner Studioの新機能
- ◆ 表記方法
- ◆ 補足情報

このマニュアルでは、Compuware® DevPartner Studio® ソフトウェアのインストール方法を説明します。

## 対象読者

このマニュアルは、DevPartner Studio をインストールするシングル ユーザーおよびコンカレント環境で使用するユーザーを対象としています。

このマニュアルでは、使用方法は説明していません。使用方法については、オンラインヘルプや、製品に付属のユーザーズ ガイドを参照してください。

このマニュアルでは、ユーザーが Microsoft Windows インターフェイスおよび Windows ソフトウェアのインストールに精通していることを前提としています。この前提にあてはまらない場合は、このマニュアルの前に Microsoft Windows のマニュアルをよく読んでください。

## DevPartner Studio の新機能

DevPartner Studio バージョン 9.0.2 には、以下の新機能が導入されました。

- ◆ DevPartner Studio は、Microsoft Visual Studio 2008 を完全にサポートしていません。これには、Microsoft Visual Studio を使用して開発されたアプリケーション分析の完全サポートや、Visual Studio 2008 IDE への完全統合が含まれます。
- ◆ 64ビットプラットフォームでの32ビットWindowsアプリケーションの開発とテストがサポートされるようになりました。WoW64（32ビットエミュレータ）で実行される32ビットアプリケーションもサポートされます。

**メモ：** 64ビットアプリケーションはサポートされていません。

- ◆ DevPartner XML データを活用して開発マネージャや QA マネージャ向けに HTML レポートを生成する、コード品質レポート機能が提供されるようになりました。
- ◆ DevPartner Studio は、Microsoft Visual Studio 2008 のプロジェクトタイプをサポートしています。それぞれの DevPartner 機能がサポートするプロジェクトタイプは、DevPartner オンラインヘルプと『DevPartner ユーザーガイド』に記載されています。
- ◆ Windows Server 2008 オペレーティングシステム上の64ビットプラットフォームで32ビットWindowsアプリケーションをサポートします。
- ◆ 分析用に LINQ ブロック レベルをサポートしています。
- ◆ Visual Studio 2008 の AJAX 言語機能に対するパフォーマンス分析とカバレッジ分析をサポートしています。
- ◆ System Comparison ユーティリティでは、2つのスナップショットを比較して表示するときにすべての項目を表示できるようになりました。
- ◆ System Comparison では、システム構成の診断に使用される比較リストに、以下の新規カテゴリ別相違点が追加されました。
  - ◇ .NET セキュリティ ポリシー
  - ◇ ハードウェアの相違点
  - ◇ ユーザー環境
  - ◇ Windows Update

## 表記方法

このマニュアルの表記方法は以下のとおりです。

- ◆ スクリーン コマンドやメニュー名などは、[] で囲んで示します。以下に例を示します。  
[ツール]メニューから[オプション]を選択します。

- ◆ ファイル名は**等幅フォント**で示します。以下に例を示します。  
『DevPartner ユーザー ガイド』(Understanding DevPartner.pdf) で説明します。
- ◆ コンピュータのコマンドとファイル名内の変数(ユーザーがインストール時に適切な値を指定するもの)は、**イタリックの等幅フォント**で示します。以下に例を示します。  
【移動先】フィールドに「***http://servername/cgi-win/itemview.dll***」と入力します。

## マニュアルの記載内容に関する注意事項

このマニュアルは、英語版のマニュアルを基に翻訳され、作成されています。そのため、日本では販売されていない製品やサポートされていない機能についての記述が含まれることがあります。

## 補足情報

機能レベルのオンライン ヘルプを利用して、DevPartner Studio のソフトウェアの機能や使用方法を参照できます。

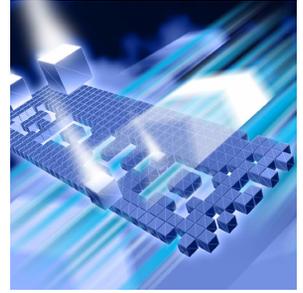
DevPartner Studio のコンポーネントについて、さらに詳しい情報が以下のように提供されています。【スタート】>【Compuware DevPartner】メニューの InfoCenter オプションから、Adobe Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルを入手できます。このマニュアルは、DevPartner Studio の DVD にも収録されています。

- ◆ DevPartner のライセンスについては、『Distributed License Management ライセンス ガイド』を参照してください。
- ◆ DevPartner ソフトウェアの使用方法については、『DevPartner ユーザー ガイド』を参照してください。
- ◆ 『DevPartner Studio クイック リファレンス』は、DevPartner の機能の概要を提供します。製品をすぐに使用するためのアドバイスも記載されています。
- ◆ 『DevPartner エラー検出ガイド』では、Compuware の DevPartner エラー検出ソフトウェアの使用方法を理解できるように、コンセプトと手順について説明します。
- ◆ Known Issues (既知の問題) のファイルには、DevPartner Studio の既知の問題とテクニカル ノートが入っています。このファイルは、インストール ディレクトリに配置されています。DevPartner ReadMe ファイル内のリンクを使用して、最新の Known Issues ファイルにアクセスすることもできます。



# 第 1 章

## DevPartner Studio のインストール



- ◆ システム要件
- ◆ サポートされている環境
- ◆ ライセンス ファイルの取得
- ◆ DevPartner Studio のライセンスについて
- ◆ ファイアウォール アラームのトリガー
- ◆ インストールされる機能
- ◆ インストール
- ◆ DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング
- ◆ DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行

この章では、Compuware® DevPartner Studio® ソフトウェアのシステム要件と、インストールについて説明します。

### システム要件

DevPartner Studio 9.0.2 (すべてのエディション) に必要な最小構成は、以下のとおりです。

表 1-1. ハードウェア

プロセッサ	1.0GHz Pentium クラスのプロセッサ (32 ビット) 2.0GHz Intel EM64T、または AMDx64 プロセッサ (64 ビット)
メモリ	512MB (32 ビット) 1GB (64 ビット)
ディスクの空き容量	2GB

表 1-1. ハードウェア (続き)

ディスプレイ	1024x768、16ビット カラー
その他	CDドライブ

表 1-2. オペレーティング システム

オペレーティング システム	エディション	ブラウザおよび IIS
Windows XP (SP2 と SP3) (32 ビットと 64 ビット)	Professional、Tablet PC	IE 6.0 IIS 5.1
Windows Server 2003 (SP1 と SP2) (32 ビット) (*64 ビット)	Standard、Enterprise、Web  *Standard と Enterprise のみ	IE 6.x、7.0 IIS 6.x、7.0
Windows Vista (SP1) (32 ビットと 64 ビット)	Business、Enterprise、 Ultimate	IE 7.0 IIS 7.0
Windows Server 2008 (32 ビットと 64 ビット)	Standard、Enterprise	IE 7.0 IIS 7.0

## サポートされている環境

DevPartner Studio は、以下の環境のリリース バージョンをサポートしています。

**メモ：** サポートされている言語およびプロジェクト タイプの総覧は、『DevPartner ユーザー ガイド』の「付録 B」を参照してください。

表 1-3. Visual Studio との統合

バージョン	エディション	.NET Framework
Visual Studio 2008	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite	.NET Framework 3.5 (Compact Framework は サポートされていません)

表 1-3. Visual Studio との統合（続き）

バージョン	エディション	.NET Framework
Visual Studio 2005 (Base と SP1)	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite（64 ビット環境はサポートされていません）	.NET Framework 2.0 (Base と SP1)、3.0* (Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio Team Foundation Server	該当なし	該当なし

\* 詳細については、「[Microsoft .NET Framework](#)」（3 ページ）を参照してください。

各環境にインストールされる機能の詳細については、「[インストールされる機能](#)」（6 ページ）を参照してください。サポートされているすべての Visual Studio テクノロジーの詳細については、『[DevPartner ユーザーガイド](#)』を参照してください。

## Microsoft .NET Framework

DevPartner Studio を使用するには、ホストマシンに Microsoft .NET Framework 1.1 がインストールされている必要があります。Framework は、DevPartner Studio に必要なシステムレベルのコードを提供します。インストール中、DevPartner Studio によって、マシンに .NET Framework 1.1 がインストールされているかどうかチェックされます。見つからない場合は、インストール中に DevPartner Studio によって追加されます。.NET Framework 1.1 は、.NET Framework 2.0、.NET Framework 3.0、.NET Framework 3.5 と共存します。

## ライセンス ファイルの取得

DevPartner Studio ソフトウェアは、14 日間の評価期間を超えて使用する場合、コンピュータのライセンス ファイルが必要です。ライセンス ファイル (license.xml) は、購入した DevPartner Studio のライセンスごとにコンピュータより提供されます。

ライセンス ファイルは、製品が届く頃を見計らって、注文時に指定されたお届け先にメールで送られます。

**メモ：** DevPartner Studio を代理店からお求めになった場合は、コンピュータの Web サイト ([http://frontline.compuware.com/sw/license\\_default.asp](http://frontline.compuware.com/sw/license_default.asp)) にアクセスするか、Worldwide License Management (1-800-538-7822) にご連絡いただき、ライセンス ファイルをリクエストしてください。

インストールとライセンス管理についての詳しい情報は、『Distributed License Management ライセンス ガイド』に記載されています。

ライセンス管理ユーティリティを実行し、コンピュータから受け取ったライセンス ファイルをインストールします。このユーティリティはWindowsの[スタート]メニューから起動します ([Compuware]>[ライセンス管理]>[ライセンス管理ユーティリティ]を選択)。14日間の評価期間は1回限りなので注意してください。

DevPartner Studio をインストールしたいが、まだライセンス ファイルが届いていないという場合は、日本コンピュータ、または代理店にお問い合わせください。

DLMを使用する他の製品を利用して、そのライセンス ファイルと同じフォルダにDevPartner Studio ライセンス ファイルを保存する場合は、ライセンス ファイル間の競合や結合、置換などが発生しないように、DevPartner Studio ライセンス ファイルの名前を変更することをお勧めします。

ライセンス取得済みのコンピュータ製品があり、ライセンス ファイルを結合することをご希望の場合は、カスタマ サポート (1-800-538-7822) にお問い合わせください。

## DevPartner Studio のライセンスについて

すべてのDevPartner Studio 製品のソフトウェア ライセンスは、コンピュータの Distributed License Management (DLM) を使って管理されます。DevPartner Studio には、DLMのバージョン4.2が付属しています。ライセンス インストールの詳細については、DevPartner Studio DVDに収録されている『Distributed License Management ライセンス ガイド』を参照してください。

DevPartner Studio ソフトウェアのライセンスについては、以下のことに注意してください。

- ◆ DevPartner Studio は、以下の3種類のパーマネント ライセンスのいずれかで実行できます。
  - ◇ ノードロック ライセンス (シングル シート ライセンス) と呼ばれるローカルにインストールするライセンス (ライセンス サーバーのインストールは必要ありません)
  - ◇ ネットワーク サーバーのライセンス マネージャ データベースに保存されるコンカレント ライセンス
  - ◇ ネットワークに接続されていないコンピュータで実行するボロー (借用) コンカレント ライセンス
- ◆ DevPartner Studio は、14日間のトライアル ライセンスを使用して実行できます。14日間の評価期間は、いずれかのDevPartner Studio 機能が使用された時点で開始します。

**メモ** : System Comparison 機能は、DevPartner Studio ライセンスの下で機能します。System Comparison のユーザー インターフェイスを使用すると、その他の DevPartner Studio 機能がインストールされているかどうかにかかわらず、14 日間の評価期間が開始します。ただし、System Comparison サービスだけを起動して使用する場合は、ライセンスは使用されないため、14 日間の評価期間は開始しません。

- ◆ DevPartner Studio では、コンカレント ライセンスについて、30 分間のアイドルセッション ライセンス タイムアウト ポリシーがサポートされます。コンカレント ライセンスが統合開発環境 (IDE) でホストされる DevPartner Studio 製品に対して使用されている場合、30 分間にわたって DevPartner Studio 機能が使用されないと (アクティブな分析セッションが存在せず、開いているセッションファイルも存在しない)、ライセンスは解放され、ライセンス プールに戻されます。
- ◆ リモート マシンからデータ収集を行うには、DevPartner Studio に DevPartner リモート サーバー ライセンスが必要です (リモード データ収集用のインストールとライセンスを参照)。
- ◆ Windows のターミナル サービス接続を経由して DevPartner Studio を実行すると、1 ユーザーにつき 1 つのコンカレント ライセンスが使用されます。ノードロック ライセンスは、ターミナル サービス接続を経由した使用をサポートしません。
- ◆ Windows のリモート デスクトップ接続を経由して DevPartner Studio を実行すると、1 つのコンカレント ライセンスまたはノードロック ライセンスが使用されます。
- ◆ Continuous Integrated Testing ソリューションなど、特定のバンドル製品のの一部として DevPartner Studio を購入した場合、バンドル製品に含まれているすべての製品を、1 つのライセンスで同時に使用できます。
- ◆ DevPartner Studio では、利用可能なすべてのライセンス パスを使って、ライセンス情報を検証します。DevPartner Studio の起動が非常に長くかかる場合は、有効なライセンス パスを入力したかどうかを確認してください。

## リモード データ収集用のインストールとライセンス

リモート システム上でアプリケーションのコンポーネントを実行すると、リモート マシンからパフォーマンス分析、カバレッジ分析、メモリ分析のデータを収集して、DevPartner Studio がインストールされているユーザー/クライアント マシンでそのデータを表示することができます。リモート データを収集するには、リモート データを収集する各リモート マシンについて、DevPartner リモート サーバー ライセンスを購入するか、コンカレント リモート サーバー ライセンスを 1 つまたは複数購入します。

## ファイアウォール アラームのトリガー

DevPartner Studioは、Visual Studioで実行されている場合でもDPAnalysis.exeから実行されている場合でも、リモートマシンからセッションデータを収集するために以前にインストールされたサービスに接続します。このサービスは、インタープロセス通信トラフィックをリスンします（インターネットアドレス0.0.0.0、ポート18441）。一部のファイアウォールでは、このサービス接続によりアラームがトリガーされます。このアドレスを信頼できるアドレスとしてファイアウォールを設定すると、アラームがトリガーされなくなります。ファイアウォールのセキュリティレベルを最高に設定している場合は、DevPartner Studioがリモートデータ収集を実行できないことがあります。この場合はファイアウォールを再構成し、アドレス0.0.0.0、ポート18441でのデータ交換を有効にしてください。

## インストールされる機能

### DevPartner Studio Enterprise Editionの機能

DevPartner Studio Enterprise EditionにはProfessional Editionのすべての機能のほかに、TrackRecordとReconcileも含まれています。

TrackRecordとReconcileをインストールする方法については、DevPartner Studio Enterprise Edition DVDを参照してください。TrackRecordマニュアルとReconcileマニュアルはAdobe Acrobat（.pdf）形式です。

- ◆ 『TrackRecord Installation & Configuration Guide』は、TrackRecordをインストールまたは設定する管理者を対象にしたマニュアルです。
- ◆ 『Reconcile Installation and Configuration Guide』は、Reconcileをインストールまたは設定する管理者を対象にしたマニュアルです。

DevPartner Studio Enterprise Editionの詳細については、『DevPartner ユーザーガイド』のDevPartner Studio Enterprise Editionについての章を参照してください。

### DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite

DevPartner Studioのパフォーマンス分析、カバレッジ分析、エラー検出機能は、DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suiteでインストールされます。これらの機能は、Microsoft Visual Studio 2005とVisual Studio 2008 IDEの両方で使用できます。

## Visual Studioのside-by-side実行

DevPartner Studio インストール プログラムがターゲット コンピュータ上に Visual Studio 2005 と Visual Studio 2008 の両方を検出した場合は、DevPartner Studio ソフトウェアが両方の IDE にインストールされます。このダブル インストールによって、両環境で同時にコードを開発することができます。

DevPartner Studio のインストール後に Visual Studio 2005 または 2008 をインストールした場合は、いつでも DevPartner Studio インストールを修正できます。DevPartner Studio インストールの修正の詳細については、[第2章、「インストールの保守」](#)を参照してください。

## インストール

このセクションでは、インストールの準備情報を示したあと、DevPartner Studio のインストール手順を説明します。

### インストールの準備

DevPartner Studio のインストールを実行する前に、以下のことに注意してください。

- ◆ Visual Studio 2005 または Visual Studio 2008 Team System で DevPartner Studio を使用する場合は、DevPartner Studio をインストールする前に Visual Studio Team Explorer をインストールします。
- ◆ DevPartner Studio を使用するには、Internet Explorer と Microsoft Script Debugger が必要です。インストール中、これらの製品のサポートされているバージョンが検出されない場合は、詳細情報のリンクと共にメッセージが表示されます。

---

**注意：** 以前のバージョンの DevPartner Studio をアップグレードする場合は、そのバージョンの DevPartner Studio をアンインストールする前に、[「DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行」](#) (10 ページ) を参照してください。

---

### DevPartner Studio をインストールするには

- 1 以前のバージョンの DevPartner Studio を実行している場合は、以前のバージョンの DevPartner をアンインストールし、マシンを再起動します (既存のコード レビュー データベースを維持するには、DevPartner Studio をアンインストールする前に [「DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行」](#) (10 ページ) を参照してください)。
- 2 Windows 管理者 ("admin") 権限でアカウントにログインします。DevPartner Studio をインストールするには、Windows 管理者権限でログインする必要があります。

- 3 ウィルス対策ソフトウェアを無効にします。

DevPartner Studio インストール プログラムで使用するスクリプトによって、ウィルス対策ソフトウェアが警告を発する可能性があります。DevPartner Studio ソフトウェアのインストール後、ウィルス対策を再度有効にしてください。

**メモ：** データ実行防止 (DEP) 設定が /NoExecute=Always On として設定され、CPU の Execute Disable Bit が有効になっているシステムでは、DevPartner Studio がインストールされないことがあります。

データ実行防止についての詳細は、[Microsoft サポート技術情報の文書番号 875352](#) を参照してください。

インストール後に、この設定を変更して AlwaysOn に戻すと、DevPartner Studio パッケージを Visual Studio にロードできなくなります。

- 4 DevPartner Studio DVD を挿入し、インストールを開始して、インストールする製品を選択します。DevPartner Studio Professional Edition をインストールする場合、DevPartner Studio または DevPartner System Comparison をインストールできます。

- 5 [Setup Type] ダイアログ ボックスで、インストールする DevPartner Studio のバージョンを選択する必要があります。

- ◇ **DevPartner Studio 8.2** : Visual Studio 2005、2003、6.0 と統合されています。

- ◇ **DevPartner Studio 9.0.1** : Visual Studio 2008、2005 と統合されています。

- 6 [次へ] をクリックします。一連の画面に従って、インストールプロセスを進めます。

**メモ：** Windows インストーラは、**subst** コマンドを使用して作成された仮想ドライブへのインストールを禁止しています。DevPartner Studio は実際のハードドライブだけにインストールしてください。

インストール プログラムによって Visual Studio 2005 と Visual Studio 2008 が検出され、デフォルトでは、すべての環境と互換性のあるすべての機能がインストールされます。DevPartner Studio コンポーネントがインストールされないようにするには、[コンポーネントの選択] 画面で、インストールしないコンポーネントを選択します。

インストール プロセスの中で、新しいコード レビュー ルール データベースをインストールするか、既存のルール データベースを使用するかを確認するメッセージが表示されます。このオプションは、ルール データベースを共有している場合に役立ちます。以前のバージョンの DevPartner Studio でビルドしたルール データベースを使用する場合は、「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」(10 ページ) を参照してください。

- 7 DevPartner Studio Professional Edition のインストール後、DevPartner System Comparison のインストールを促すメッセージが表示されます。これは、コンピュータ システム間の相違、または同じコンピュータ上の別の構成間の相違を特定できるツールです。

デフォルトでは、System Comparison のインストールが開始されます。インストールの必要がない場合は、キャンセルできます。

使用しているシステムに System Comparison のアップデート バージョンが存在する場合は、インストールは行われません。

## DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング

DevPartner Studio では、DevPartner Studio インストールの詳細情報として Microsoft インストーラ (MSI) のログをキャプチャします。そのログを調べれば、インストールの問題を診断できます。または、コンピュータからサポートを受ける場合に、このログをカスタマ サポートのエンジニアに提供することができます。

DevPartner Studio のインストールに応じて、このファイルは **DPSxxinstall.log**、または **DPVCxxinstall.log** (xx はリリース番号) という名前で、以下の場所に配置されます。

Windows XP システムおよび Windows Server 2003 システムの場合 :

**C:¥Documents and Settings¥<user>¥Local Settings¥Temp¥**

Windows Server 2008 システムおよび Windows Vista システムの場合 :

**C:¥Users¥<user>¥AppData¥Local¥Temp¥DPSxxinstall.log**

MSI ログのほか、以下の情報を準備してください。

- ◆ インストールしているソフトウェアとそのバージョン
- ◆ オペレーティング システムと Service Pack
- ◆ インストールされている DevPartner Studio ソフトウェアの旧バージョン
- ◆ 前のバージョンの削除に問題があったかどうか
- ◆ MSI ログを添付ファイルとして送信できるかどうか
- ◆ インストール中に表示されたエラー メッセージの内容
- ◆ 完全な管理者権限のあるアカウントからインストールしたかどうか
- ◆ インストールをローカルまたはリモートのどちらで実行したか。リモートで実行した場合は、使用したソフトウェア
- ◆ インストール前にウイルス対策ソフトウェアを無効にしたかどうか
- ◆ DEP 設定が /NoExecute=OptIn と構成されているかどうか

## DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行

以前に DevPartner Studio をインストールしており、コード レビュー ルール データベースやプリファレンス データベースをカスタマイズしている場合、これらのデータベース ファイルを DevPartner Studio の現在のリリースに移行する必要があります。これにより、アップグレード中に設定が失われることを防止できます。

DevPartner Studio には、この移行処理を自動化する以下の 2 つのユーティリティがあります。

- ◆ **crupdaterules.exe** : 以前のリリースのルールを現在のリリースのルール データベースに移行します。
- ◆ **crupdateprefs.exe** : 以前のリリースのユーザー設定を現在のリリースのプリファレンス データベースに移行します。

これらのユーティリティを使用すると、カスタマイズしたルールとユーザー設定が新しいルール データベースとプリファレンス データベースにそれぞれ移行されます。

### 移行の準備

- 1 DevPartner Studio をアンインストールする前に、安全のため、既存の **CRRules.dpmdb** ファイルと **CRPrefs.dpmdb** ファイルをほかの場所にコピーします。

デフォルトでは、以前のバージョンの DevPartner Studio で作成されたデータベース ファイルは **¥Program Files¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview** に入っています。

**メモ** : 64 ビット バージョンの Windows へのインストールでは、DevPartner Studio は以下の場所にあります。

**¥Program Files (x86)¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview.**

(DevPartner Studio のアンインストールプロセスにより、ルール データベースとプリファレンス データベースのバックアップ コピーが作成されます。データベースのバックアップ コピーを作成せずにすでに DevPartner Studio をアンインストールしている場合は、自動的に作成されたバックアップ ファイルを使用できます。このファイルは、DevPartner Studio のインストール ディレクトリ **¥Code Review¥Backup** に格納されています)。

- 2 DevPartner Studio の前バージョンをアンインストールします。
- 3 DevPartner Studio 9.0.2 をインストールします。新しいルール データベースを作成するか、既存のルール データベースを使用するかを尋ねるメッセージがインストール画面に表示されたら、新しいルール データベースを作成するオプションを選択します。インストール後は、新しいデータベースが更新されます。

新しいデータベースは、以下の場所に配置されます。

Windows XP システムおよび Windows Server 2003 システムの場合：

**C:¥Documents and Settings¥All Users¥Shared Documents¥Code Review**

Windows Server 2008 システムおよび Windows Vista システムの場合：

**C:¥Users¥Public¥Public Documents¥Code Review**

- 4 DevPartner Studio 9.0.2 のインストール時に作成された新しい **CRRules.dpmdb** ファイルと **CRPrefs.dpmdb** ファイルを、手順 1 で使用した以外の場所にコピーします。これにより、元のルール ファイルやプリファレンス データベース ファイルの上書きを避けることができます。

ルール データベースの移行またはプリファレンス データベースの移行に進み、目的の移行を実行します。

## ルール データベースの移行

- 1 コンソール ウィンドウから DOS セッションを開始します。
- 2 DOS プロンプトで、DevPartner Studio をインストールしたディレクトリに移動します。デフォルトでは、DevPartner Studio は **¥Program Files¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview** にインストールされます。このディレクトリには、移行ユーティリティも含まれています。

**メモ：** 64 ビット バージョンの Windows へのインストールでは、DevPartner Studio は以下の場所にあります。

**¥Program Files (x86)¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview.**

- 3 このディレクトリから、**crupdaterules** というコマンドを入力し、続けてルール データベースの以前のバージョンへのパスを指定します。以下に例を示します。

**crupdaterules C:¥MyOldRulesDb¥CRRules.dpmdb**

使用するコマンド文字列は、移行するルール データベース ファイルの場所を指している必要があります。また、コマンドは、1 行に入力する必要があります。

既存のルールが、新しい DevPartner Studio コード レビュー ルール データベースに移行されます。

## プリファレンス データベースの移行

- 1 コンソール ウィンドウから DOSセッションを開始します。
- 2 DOS プロンプトで、DevPartner Studio をインストールしたディレクトリに移動します。デフォルトでは、DevPartner Studio は **¥Program Files¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview** にインストールされています。このディレクトリには、移行ユーティリティも含まれています。  
**メモ：** 64 ビット バージョンの Windows へのインストールでは、DevPartner Studio は以下の場所にあります。  
**¥Program Files (x86)¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview**
- 3 このディレクトリから、**crupdateprefs** というコマンドを入力し、続けてプリファレンス データベースの以前のバージョンへのパスを指定します。以下に例を示します。

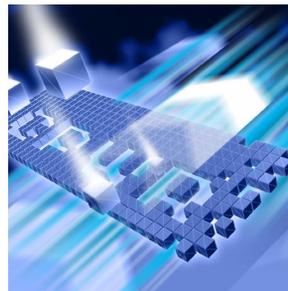
**crupdateprefs "C:¥MyOldPrefsDb¥CRPrefs.dpmdb"**

使用するコマンド文字列は、移行するプリファレンス データベース ファイルの場所を指している必要があります。

既存のプリファレンスが、新しい DevPartner Studio コード レビュー プリファレンス データベースに移行されます。

## 第2章

# インストールの保守



- ◆ 保守モードにアクセスする
- ◆ インストールを変更する
- ◆ インストールを修正する
- ◆ インストールを削除する

## 保守モードにアクセスする

---

**必須：**このセットアッププログラムを実行する前に、必須ではないWindowsプログラムをすべて終了することをお勧めします。一部のWindowsプログラムは、インストールプロセスに干渉する可能性があります。

---

Windowsのコントロールパネルから保守モードにアクセスするには、以下の手順を実行します。

- 1 Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、続けて[すべてのプログラム]>[Compuware]>[DevPartner Studio]>[インストールの変更]を選択します。  
DevPartner Studioインストールウィザードが表示されます。

**メモ：**DevPartner Studioインストールウィザードは、Windowsの[スタート]ボタンからアクセスすることをお勧めします。

- 2 [次へ]をクリックします。[プログラムの保守]ページが表示されます。

ウィザードのこのページから、**変更**、**修復**、**削除**の3種類の保守モードオプションにアクセスできます。それぞれのオプションの詳細については、この章の該当するセクションを参照してください。

## インストールを変更する

製品をアンインストールして再インストールする代わりに、オプションのコンポーネントを追加または削除して、**DevPartner Studio** のインストールを変更できます。

### オプションのコンポーネントを使用して製品を変更する

- 1 この章の始めに説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 **[変更]** オプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。**[コンポーネントの選択]** ページが表示されます。コンポーネントの追加や削除はこのページで行います。
- 3 各機能の隣にあるアイコンをクリックし、以下のいずれかの操作を行うために適したオプションを選択します。
  - ◇ その機能をローカルハードドライブにインストールする。
  - ◇ その機能と、サブ機能のすべてをローカルハードドライブにインストールする。
  - ◇ インストール時にその機能を選択できないようにする。このオプションを選択すると、以前にインストールされたコンポーネントはすべて削除されます。
- 4 **[次へ]** をクリックします。「プログラムを変更する準備ができました」というページが表示されます。
- 5 **[インストール]** をクリックします。インストールが開始されます。セットアッププログラムにより、適切なコンポーネントが追加、または削除されます。  
変更後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 6 **[完了]** をクリックして、変更を終了します。

**ヒント:** 個々の機能を選択すると、その機能に関する説明が**[コンポーネントの選択]**ページに表示されます。また、このページの**[ヘルプ]**ボタンをクリックすると、さらに詳しい情報が表示されます。

## インストールを修正する

**DevPartner Studio** のインストールが破損して、修復が必要になる場合があります。その原因は、不注意による削除やプログラムの破損が考えられます。**DevPartner Studio** のインストールを修復するには、以下の手順を実行します。

- 1 この章の始めの「保守モードにアクセスする」で説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 **[修正]** オプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。「プログラムを修復する準備ができました」というページが表示されます。
- 3 **[インストール]** をクリックします。インストールが開始されます。セットアッププログラムにより、適切なコンポーネントが追加、または削除されます。

- 4 修復後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 5 **【完了】**をクリックして、保守を終了します。

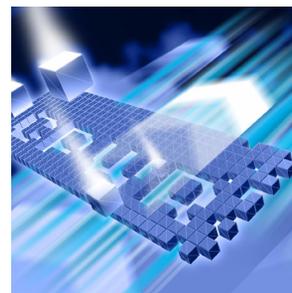
## インストールを削除する

コンピュータから **DevPartner Studio** のインストールを削除する場合は、以下の手順を実行します。

- 1 この章の始めに説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 **【削除】** オプションを選択します。**【次へ】** をクリックします。**【プログラムの削除】** ページが表示されます。
- 3 DevPartner コード レビュー ルール データベースのバックアップ コピーを保存するには、このチェック ボックスをオンにします。
- 4 **【削除】** をクリックします。セットアップ プログラムにより、**DevPartner Studio** のインストールが削除されます。
- 5 アンインストール後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 6 **【完了】** をクリックして、保守を終了します。



# 索引



## C

crupdateprefs .....	10, 12
crupdaterules .....	10

## D

DEP 設定 .....	8
DevPartner	
アップグレード .....	7
カスタム ユーザー設定の移行 .....	12
カスタム ルールの移行 .....	11

## S

System Comparison ユーティリティ .....	9
---------------------------------	---

## V

Visual Studio 2005、DevPartner の あとにインストール .....	7
--	---

## あ

アクセス方法	
保守 .....	13

## い

以前の DevPartner バージョン .....	7
インストール	
製品インストールの修復 .....	14
製品コンポーネントの変更 .....	14
インストールの保守 .....	13

## か

管理者権限 .....	7
-------------	---

## こ

コード レビューのユーザー設定の移行 .....	12
コード レビュー ルールの移行 .....	11

## さ

削除	
保守 .....	15
サポート .....	4

## し

システム要件 .....	1
修復	
保守 .....	14

## す

スクリプト、ウイルス対策ソフトウェアに よる介入 .....	8
-----------------------------------	---

## て

データ実行防止の設定 .....	8
テクニカル サポート .....	4

## と

トライアル .....	4
トライアル ライセンス .....	4

## へ

変更	
保守	14

## ほ

保守	
アクセス方法	13
削除	15
修復	14
変更	14

## よ

要件	1
----	---

## ら

ライセンス	
タイムアウト ポリシー	4
トライアル	4
ライセンスのタイムアウト	4
ライセンス ファイル	
インストール	4
取得	3
テクニカル サポート	4

# 日本コンピュータ株式会社

## テクニカル・サポートのご案内

### オンライン・サポート・サイト FrontLine Japan

コンピュータの製品およびサポートに関する追加情報は、FrontLine Japan で提供されています。

<http://frontlinej.compuware.co.jp>

---

FrontLine Japan のご利用には事前のユーザー登録が必要です。製品、サポートに関する重要な情報も配信されますので、是非この機会にご登録ください。

---

### テクニカル・サービスデスク

営業時間 月～金 9:00～18:00（祝祭日、弊社休業日は除く）

コンピュータ製品の利用に関しての技術的な質問やサポートに対するお問い合わせ窓口として、テクニカル・サービスデスクを設置しています。

---

お問い合わせの際は、FrontLine Japan のお問い合わせフォームをご利用ください。緊急時には、フリーダイヤル 0120-188-540 までお電話ください。

---

テクニカル・サポートの詳細な内容は、FrontLine Japan をご覧ください。

